

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 21 号

平成 16 年 1 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三  
電話 045-912-1960

印刷・発送人 〒285-0844 佐倉市上志津原 34 佐藤れん  
電話 043-487-7030

### 内村鑑三「一日一生」より(5)

1 1 月 2 2 日

地の果てなるもろもろの人よ、私を仰ぎ望め、そうすれば救われる。私は神であって、ほかに神はないからだ。(イザヤ書 45・22)

世の教師は言う「まず己を浄(きよ)めてしかる後世を浄めよ」と。されども神はいいたもう「なんじらわれを仰ぎ望め、さらば救われん」と。われ己を浄めんと欲して、終世この業(わざ)に従事するもあたわず。されども神の子羊なるイエス・キリストを仰ぎ望んで、われはわが靈魂(たましい)の癩病の即座に清めらるるを覚ゆ。往けよ、世の教師よ。なんじはわれに自省を説いて、われに半生の苦悶を供せり。われは今より神に聴いて、仰望の秘術に従って歩まん。

1 1 月 2 3 日

これに対して、ペテロをはじめ使徒達は言った、「人間に従うよりは、神に従うべきである。私たちの先祖の神は、あなた方が木にかけて殺したイエスをよみがえらせ、そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導きてとし救い主として、ご自身の右に上げられたのである。私達はこれらのことの証人である。神がご自身に従うものに賜った聖霊もまた、その証人である。」(使徒行伝 5・29 - 32)

キリスト教の伝道とは、わが主張を世におよぼし、わが徳をもって人を化し、もってわが党わが弟子を作ることではない。キリスト教の伝道とは、われの罪あるを世に表白し、われの受けし恩恵(めぐみ)を人に示し、わが救いを世に紹介し、もって彼の従者、彼の弟子を作ることである。世にいわゆる伝道なるものと、キリスト教の伝道なるものとの間にかくも相違のあることをわれらは心に留めておかねばならない。この意味をもってすれば真正のキリスト信者は誰でも伝道に従事することができる。伝道は説教でもなければ牧会でもない。伝道はわが心に実験せし神の救拯(すくい)を余に発表することである。この実験なくしてはいかに該博(がいはく)なる神学教育を受けしものであっても、キリスト教の伝道師ではない。またこの実験あれば、何人(なんびと)も有力なる伝道師たることができる。

1 1 月 2 5 日

それは、私が語り、呼ばれるごとに、「暴虐、滅亡」と叫ぶからです。主の言葉が一日中、わが身のはずかしめと、あざけりになるからです。もしわたしが、「主のことは、重ねて言わない、このうえその名によって語ることはしない」と言えば、主の言葉がわたしの心にあって、燃える火のわが骨のうちに閉じこめられているようで、それを押えるのに疲れはてて、耐えることができません。

(エレミヤ書 20・8 - 9 )

預言者は詩人であり、詩人は預言者である。二者の間の区別を立てることははなはだかたい。預言者は神の旨(むね)を伝うものであって、詩人は天然の心を語るものであるというても、二者の区別は立たない。なにゆえとなれば、神の旨を解せざれば天然の心はわからず、天然を解せざれば神の旨はわからないからである。ゆえにすべての預言者はよく天然を解し、すべての詩人はよく神の旨を知る。預言者も詩人もひとしくただちに神よりおくられた者であって、人よりにあらずまた人にあらず、ただちに神によって立てられたる者である。二者は同階級の人である。儀礼に重きを置く儀式家(リチュアリスト)、文字を争う神学者の正反対に立つ者であって、活(い)きたる神にもっとも近く立つものである。

1 2月3日

そこで、イエスは彼らに答えられた、「私の父は、今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである。」(ヨハネ伝 5・17)

他の宗教が一定の時期を経過すれば必ず死にゆくに、キリスト教のみが年ごとに新たなるはなにゆえなるか。なにゆえに古き聖書は歳と共に古びざるか。これは哲学的真理が完全無欠であるからであるか。そうとは思えない。キリスト教の不朽なるは、神の不朽なるによるのである。活きたる神がつねにこれに伴い、その真理をもって人の心に働きたもうからである。しかしながら神がいましたもう間は　　そうして神がいましたまわらない時とては、未来永劫(みらいえいごう)決してない　　聖書の真理がその活力を失う時はない。われらは神を信じつつキリスト教の真理をきわめて、その救済(すくい)にあずかるべきである。

1 2月4日

だから、あなたがたは、神に選ばれたもの、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍びあい、もし互いに責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなた方もゆるし合いなさい。これらいつさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。  
(コロサイ書 3・12 - 14)

われらの罪は赦されたり。われいかで隣人(となりびと)の罪を赦さざるをえんや。神われを愛せり、神の愛わが心にあふれて、われはわれの隣人を愛せざるをえず。人は神より赦されざる間は、心より他人を赦さざるなり。富みたりて徳たるの理由は、けだしここに存するなるべし。有限なる人の霊が無限の博愛を衆(すべて)に及ぼさんとするは、望むべくして行なわらざるべきことにあらず。われの杯(さかずき)あふれて後、われは隣人にわれの歡喜(よろこび)の温味(あたたかみ)を伝えうるなり。愛の泉源(いずみ)は神なり。われ神に接して後、愛われを充たし、しかして後またわれより流れ出ざるなり。

12月13日

そこで主は言われた、「この不義な裁判官の言っていることを聞いたか。まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあるか。」(ルカ伝 18・6 - 7)

信仰の生涯は外面の無事平穩なるに対して、内部は多事動揺の生涯である。神を信じ、彼の黙示に接し、彼の約束に与り、しかもその約束の速やかに実行せられざるより、ある時は彼をうたがい、時にあるいは全く彼と離絶せんとする。ここに忍耐の必要が起り、信じがたきを信じ、望みがたきを望む。時には聴かれざる祈禱に信仰の根底をくじかれ、時には懷疑の雲に希望の空を蔽(おお)わる。ひとり泣き、ひとり叫び、ひとり祈る。かくしてわれは数年、または数十年を経過せざるをえず。されども見よ、時いたれば天開け、わが眼はそこにわが故郷を見るに至る。神はわが父となりて、われは彼の子と称せらる。世は外に拡張しつつありし間に、われは内に穿(うが)ちつつあったのである。われはついに生命(いのち)の水に掘りあてた。流れて永生(かぎりなきいのち)に至るの泉は、わがうちよりほとばしるに至ったのである。

12月14日

主よ、私はあなたに呼びわります。すみやかにわたしをお助けください。わたしがあなたに呼ばれるとき、わが声に耳を傾けてください。わたしの祈を、み前にささげる薫香（くんこう）のようにみなし、わたしのあげる手を、夕べの供え物のようにみなしてください。（詩篇 141・1 - 2）

祈禱の聴かれないことがその真に聴かれたことである。神が人にくださったもう最大の恩賜（たまもの）は、神ご自身である。彼を知ることが永生（かぎりなきいのち）である。造り主は被造物よりも貴くある。宇宙とそこにある万物を獲（う）るとも、もし神をわがものとすることができないならば、われらは真に貧しきものである。しかして神はこの最大の恩賜をその子に与えんとなしたまいつつある。しかしてこの恩賜は苦痛とともに与えられつつある。しかして信者の最大の幸福は聴かれざる祈禱である。しかしてよくこの苦痛にたえうる者に、神は、ご自身なる彼の最大の恩賜をくださったもうのである。

12月17日

主なる神、イスラエルの聖者はこう言われた、「あなたがたは立ち返って、落ち着いているならば救われ、穏やかにして信頼しているならば力を得る。(イザヤ書 30・15)

平穏にして、すなわち沈黙を守りてより頼まば、すなわちみずから努めずして神の行動(はたらき)を待たば、なんじは力を得べし。すなわち強くなるべし。すなわちなんじの敵に勝つをうべし。すなわち救わるべし。嫉妬(ねたみ)の毒矢に身をさらす時、国人こそりてわれを迫害するとき、われ一人、羊が狼の群中にあるがごとき地位に立つとき、われはただ静寂を守り、すべての救済(すくい)を神より望み、彼をしてわが城砦(じょうさい)たり、守衛たり、武器たらしむべきなり。われは弱けれど、彼は強し。われ彼とともにありて、われ一人は全世界よりも強し。救いはエホバにあり。願わくは恩恵(めぐみ)なんじの民の上にあらんことを、アーメン。



12月27日

あなたがたは自分のために正義をまき、慈しみの実を刈り取り、  
あなたがたの新田を耕せ。いまは主を求めべき時である。主は来  
て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる。(ホセア書 10・  
12)

米国の詩人ホイットマンの言いました「大いなる友人」は、私ど  
もの友人であります。彼はわたくしがひとり杖を曳いて散歩する時  
の唯一の話し相手であります。凋林(ちょうりん)に葉絶えて、丘陵  
ために粗色を呈するとき、寒月、梢(こずえ)の上にかかりて、氷  
のごとき光を送りますときに、私どもはひとり小川の辺(ほとり)  
に立ちて、「わが父よ」と呼び、「わが友よ」と叫びます。そして暮  
色蒼然として独りわが家に近づきます頃は、わたしどもの心の中は  
まばゆきばかりになりまして、空天に輝く星までが、わたくしども  
のために讃美歌を唱えてくれます。世にこんな友をもつものは他に  
どこにありますか。

1 2 月 2 8 日

あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。(コリント第1書 10・13)

われは時々、夜半ひとり静かに双手をわが胸に当てて言う、われもしいま死するならば、われは平和に死につくをうべきかと。しかしてかく独り己に問うて、われはいまだかつて一回も満足なる答えを得る能わざりき。されども主はわれに教えていいたもう、なにゆえ死について思いわずらうや、なんじはいま死するにあらず、ゆえに死に勝つの力はいまだなんじに与えられざるなり。明日のことを思い煩うなかれ。明日は明日のことを思い煩え。一日の苦勞は一日にて足れり。なんじの力はなんじの日の数にしたがわん。なんじが死する時にあたって、死に勝つの力はなんじに加えらるべしと。よって知る、死に就(つ)くの準備の、忠実に今日の職に従事することなるを。われは死を恐るるを要せず、われもまた主の恩恵(めぐみ)によりて平康(やすき)をもって死につくをうべし。